

① 学習指導案

| | |
|-------------------------|--|
| プログラム | No.11 「地域景観プランナーになろう」 |
| 単元名 (20時間/ 全70時間) | 「保倉川学習会を開こう」 ※大単元「探検！発見！保倉川 知ろう・調べよう・伝えよう」(全70時間))のうちのまとめの学習となる小単元 |
| 学習のねらい | 保倉川について学んだことを多様な方法で発表することを通して、地域への愛着を深めたり、自分と地域のつながりについて考えたりする。 |
| 学習内容 | 1 保倉川学習会を開く目的や方法を話し合う。 2 活動ごとにチームをつくり、計画を立て準備をする。 3 リハーサルを行い、改善点を出し合う。 4 全校児童や保護者を招待し、保倉川学習会を開く。 |
| 参考資料 準備品 実施場所等 | 『安全な毎日を送る方法6 地震、台風などの災害から身を守る』、『こどものための防災教室』、『上越市史』、上越タイムス記事、防災学習会資料 プラスチック段ボール、模造紙、段ボール、非常食、カセットコンロなど 小学校体育館、教室、家庭科室、備蓄倉庫 |

学習の流れ

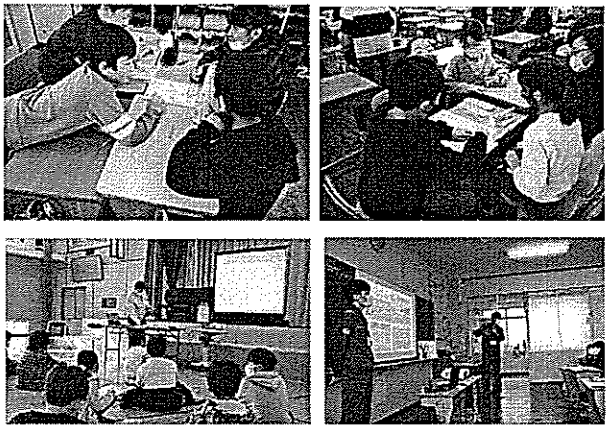
| 時間 | 学習活動 | 教師の指導 | 評価 |
|----|---------------------------|--|--|
| 3 | ○保倉川学習会を開く目的や方法を話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> • これまでに学習してきたことを想起させる。 • 目的を明確にさせ、様々な方法を提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> • 目的に応じた内容や方法を考えることができたか。 |
| 10 | ○活動ごとにチームをつくり、計画を立て準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> • ねらいを達成するための方法を考えさせる。 • 計画と進捗状況を確認し、助言を与える。 | <ul style="list-style-type: none"> • 友達と協力して準備を進めることができたか。 |
| 3 | ○リハーサルを行い、改善点を出し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> • 保倉川学習会のリハーサルを行い、店側、客側双方の立場から問題点を出せるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> • 表現方法を工夫して保倉川のことを伝えることができたか。 |
| 4 | ○全校児童や保護者を招待し、保倉川学習会を開く。 | <ul style="list-style-type: none"> • 準備時間を設定する。 • 客が多いことを想定し、対応の仕方を事前に考えさせる。 • めあてを立て、振り返りの時間を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> • 友達と協力してコーナーを運営し、ねらいに迫ることができたか。 |



<留意点>

- リハーサルを通して改善点を話し合う活動では、招待する相手の立場に立って問題点を出し合うようにする。

② 事業実施報告書詳細

学校名 上越市立南川小学校

| 時数 | 場所 | 概要 | 対象者の反応及び活動記録（写真） |
|----|-----------------------------|---------------------------|---|
| 3 | 4年教室 | ○保倉川学習会を開く目的や方法を話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> • これまでに学習してきたこと（保倉川での調査活動、昔の保倉川、用水開発、保倉川と水害、防災）を想起し、誰に、何を、どのような目的や方法で伝えたいかを話し合った。 • 話し合う過程では、保倉川現地での活動を願う意見も多数あったが、季節や安全性を考慮し、体育館での学習会を行う方がメリットがあるということに意見がまとまっていった。 • 招待する人は、3年生と4年生保護者、そして希望する全校児童となった。  |
| 10 | 4年教室 体育館 備蓄倉庫 家庭科室 | ○活動ごとにチームをつくり、計画を立て準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> • 活動するチームが次のように決まった。【パンフレットチーム、昔の川・災害対策チーム、段ボールベットチーム、保倉川のクイズ・くじチーム、非常食チーム】 • チームで計画を立てたときには、お客を楽しませる方法について多くの意見が出された。しかし、内容が「保倉川」から離れていく様子も見られた。ねらいを見直し、初めて来るお客に保倉川が伝わる内容になるように考え直した。 • チームで準備を進める中で、振り返りの時間を適宜とった。チームでの進捗状況を確認したり、自分の取組を自己評価したりした。 • 段ボールベットチームは、市役所と連携し簡易式段ボールベットを借用し、学習会に用いることにした。 |

| | | | |
|---|-----------------------------|---------------------|---|
| | | |  |
| 3 | 4年教室 体育館 備蓄倉庫 家庭科室 | ○リハーサルを行い、改善点を出し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 各チームを二つに分け、店側と客側になってコーナーを運営した。学級内で各コーナーを楽しみながら体験しつつも、お客の視点に立って改善点を考えるようにした。 リハーサル後の話し合いでは、次のような意見と改善策が出された。 <ul style="list-style-type: none"> <u>パンフレットチーム</u>…各コーナーのお客に偏りがあったので、係の人が回る順を指示することにした。 <u>段ボールベットチーム</u>…チームで順番に説明にしていたが、次から次に来るお客に対応できなかったため、受付を作り、係の人が全ての道具をガイドする方法を考えた。 <u>昔の川・災害対策チーム</u>…説明の途中でお客が来て困ったので、時間で区切る「映画館方式」を取り入れた。 <u>クイズ・くじチーム</u>…両方のコーナーを体験してもらえるように列の並び方を考えた。 <u>非常食チーム</u>…肉じゃがの野菜が固いという問題があった。切り方、水の分量、時間などを改善した。 改善点を確認するために、2回目のリハーサルを行い本番へ向けて準備を整えた。  |

| | | | |
|---|-----------------------------|--------------------------|--|
| | | |  |
| 4 | 4年教室 体育館 備蓄倉庫 家庭科室 | ○全校児童や保護者を招待し、保倉川学習会を開く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習会では、楽しく体験してもらうだけでなく、なぜその体験をしてもらうのかという「ねらい」を重視し、お客に分かりやすく説明することができた。 ・お客として訪れた他学年や保護者、教職員から「楽しかった」「おいしかった」「分かりやすい説明だった」「堂々としていた」「どの子も一生懸命取り組んでいた」などと評価してもらい、子どもたちは達成感、充実感を味わった。 ・これまでにお世話になった川の講師の方も招待し、学習の成果を伝えることができた。  |

③ 実施内容について

| |
|--|
| <p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none">・単元のゴールとなる「保倉川学習会」の構想に当たっては、児童の主体性が発揮できるように、児童同士が何度も話し合う場を設け、目的を共有したうえで計画に移ることができた。・保倉川学習会の本番に向けて、学級内で複数回リハーサルを行った。改善点を児童自ら出し合うことによって、主体的な課題解決が見られた。本番も活動が充実し児童が達成感を味わうことができた。 |
| <p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">・自然体験活動では天候不順のため予定通り活動が実施できなかつたり、コロナ過による休校のため活動時期が限定されたりした。・保倉川と防災に関する知識を得るために、講師を招いた学習会を複数回実施したが、そこに体験活動を組み合わせることができない場面があった。 |
| <p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none">・まとめの活動となった「保倉川学習会」では、保倉川に関する様々な発表コーナーを考えた。目的を共有した児童同士が集まり、主体的に計画、準備、改善を行っていったことで、充実した活動を展開することができた。また、助成金を有効に活用し、豊かな体験ができるようにコーナーを設計することができた。・保倉川について自然という視点だけでなく、歴史や災害、防災といった視点から地域を見つめ直すことができた。そのことにより、地域の成り立ちに誇りをもったり、地域とともに生きていこうと考えたりするようになった。 |
| <p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・児童主体の活動を構想するために、児童の声に耳を傾けながら、学級全員の目的共有を図ることができた。児童同士の評価やアドバイスを生かしながら、教師も適切に助言を与え、児童とともに活動をつくることができた。・保倉川学習会に多くの教職員が参加し、児童の主体性を捉えることができた。 |
| <p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none">・体験活動と思考活動の往還をどのようにつくっていくか考えていきたい。体験を重視する中で、どのように知識を与えたり獲得させたりしていくか。またどのような表現方法を用いて思考を深めさせるかを考えていきたい。例えば、本モデルプログラム実施の過程では、体験したことを物語創作という表現形式でまとめさせたことがあった。この取組の有効性については今後検証していきたい。 |